

平成29年6月19日

浜田市議会議員 西田清久様

超党 はまだ

牛尾 昭



網走市視察報告書

下記の通り視察を行いましたので報告いたします。

記

1. 期間 平成29年6月5日～6月7日
2. 視察先および調査事項
 - (1) 東京農業大学オホーツクキャンパス
六次産業化と人材育成について
 - (2) 網走刑務所
出所後の社会復帰支援の在り方について
 - (3) 網走市郷土博物館・モヨロ貝塚館。オホーツク流氷館
網走監獄博物館・北海道立北方民族博物館
公共施設の在り方について
3. 参加者
岡野克俊 小川稔宏 野藤薫 上野茂 岡本正友
芦谷英夫 江角敏和 牛尾昭
4. 視察先の説明担当者
 - (1) 副学長渡部俊弘。事務局長小畑幹夫。準教授菅原優。
 - (2) 刑務所長 麓学。総務部長広田肇。処遇部長山端忠晴
法務技官佐々木博克。看守長松尾康弘。
 - (3) 議長山田庫司郎。議会事務局次長細川英司。
米村館長。北方文化振興協会課長佐々木智英。



今回の視察の目的は、島根あさひ社会復帰促進センターが、開設10年目を迎えるに当たり、社会復帰に向けた取り組みが進んでいる、網走刑務所の先進事例の研修と同一市内に5館も博物館が存在している、それぞれの館の実態把握と公共施設の在り方。浜田市と同じような市勢構成、すなはち、農業と漁業、刑務所と大学が各一カ所という非常に類似性の高い都市構成の比較研究がテーマである。

(1)

東京農業大学オホーツクキャンパスの訪問は、久保田市長の紹介で、「農と観光そして六次産業化」というテーマで、著名な黒滝秀久にひとコマ90分の指導を受ける予定であった。ところが、教授が野球部の顧問であったため、東農の野球部が北海道で優勝したため、急遽、東京出張となり、副学長の挨拶と代わりに、菅原準教授の講義を受け質疑応答をした。なを、東京農大の第5代学長は、三浦さんで三隅町のご出身で三浦ヨシタケ氏の叔父にあたるそうである。資料は、巻末に添付する。

(2)

網走刑務所の視察は、同僚の上野議員のお世話で、島根あさひ社会復帰促進センターの所長さんを介して快諾を得た。同刑務所は、東京ドーム350個分の広さがあり、日本一の広さを誇る。先ず、所長の先導で、所内全域の参観をして意見交歓会に移った。網走刑務所の現状は、平均入所回数4.3回、最高17回目の入所者を抱え、定員1600名のところ、現在820名という実数であった。我々の当初の目的の、社会復帰の現状についての質問は、あさひのような、初犯の受刑者を扱っておらないということ、出所するとほとんど本土へ帰るのでデータがないとの返答であった、予定時間を一時間をオーバーしたが熱心に応対して頂いた。なを、資料は巻末に添付する。

(3)

早朝から、網走市立郷土博物館において、山田議長の挨拶があり、その後、議会事務局次長の細川さんの随行により、説明を受けた。この博物館は、網走市で最も古く昭和11年11月の開館で、年間管理費が811万、入館者が年間5650人というH28年実績である。

次にモヨロ貝塚館は、米村喜男衛氏によって発見され、アイヌ民族の前に、モヨロ人が生活をしており古代オホーツク文化圏が形成され、オホーツク海を取り巻くエリアにおいて、1300年前に生活圏があり、その遺跡群である。現在は、発見者の息子さんが館長を兼務しておられる。施設は、昭和40年開館で、平成25年に改築開館している。総工費は、51600千円で市の負担は、21400千円である。巻末に資料添付。

次にオホーツク流氷館は、改築開館してまもなく二年を迎えるようで、総工費16億円で、指定管理中、詳細は後日資料送付との事であった。ここで、細川次長は帰庁。

次に財団が運営管理する網走監獄博物館の視察を行ったが、時間が遅れ説明者がおらず、地図を片手に持った参観となった。この博物館は、8棟の重要文化財と6棟の登録有形文化財からなり、2016年に国の重要文化財に登録されている。実質の収支は、解

らないが、麓所長によると、五月の連休で二万人が入場したようであり、入場料は一人1080円である。その外、監獄食堂やおみやげ店などが充実していて順調に見える。

最後に、北海道立北方民族博物館を視察、公務ということで、一般財団法人北方文化振興協会に指定管理中であったが、道の佐々木課長の取り計らいで、無料入場し、学芸員のていねいな説明を受けた。この施設は、平成3年開館で、当時の網走市長が奔走して、市立郷土博物館の資料3000点を寄贈して道立になったとのことである。なを、限られた時間と指定管理者の立場から収支の詳細は聞き取りが出来なかった。

視察を終えての考察

(1) 東京農大と県立大学を比較すると、東農大は、農学部や応用生物科学部バイオサイエンス学科、醸造科学科、生物産業学部アクアバイオ学科などを有しており、総合政策学部だけの県大と大きくその性格が異なっており、第一次産業に対しての6次産業化を望むのは難しい。従って、6次産業化については、島根大学と協働し、県大とは、市のソフト関連事業との協働が望ましい。

(2)

網走刑務所での意見交歓会を通して、島根あさひ社会復帰センターの出所後の社会復帰に向けた取り組みは、十分可能であるとの見解であり、出所前の職業訓練を民間会社とセンターが足並みを揃えて行い、その上で衣食住完備が重要である。

(3)

公共施設のあり方については、人口3万6千人の網走市には、道立博物館が1館、市の博物館が3館、財団の博物館が1館、市立美術館が1館と極めて多い。その上に、モヨロ博物館は、4年前に5億円で改築、流水館は、2年前に16億円かけて改築されている。改築における議会の意思は、夫々全会一致と聞いている。網走市の年間予算は、232億円で、そのうち市税が46億円で自主財源比率は、20%程度である。羽田～女満別空港間の利用者は約50万人、年間宿泊者数は、374万人、入り込み客は1500万人で、どちらかといえば通過型であり、施設整備での集客に力をそそいでいることが、伺われる。従って、次長の見解は、財政的には厳しいとのことであった。

以上、視察報告とします。